

G U R E N S A N R A N



紅

蓮

燦

爛

R-18  
成人指定





PILGRIM

紅蓮



強くなるために日々鍛錬を重ねる紅蓮は

あまりにも魅力的で——  
手の届かない存在のように思えた



そんな彼女が……





指揮官



指揮官…私に  
教えてくれない  
だろうか

この前



頼みがある

この本に  
書いてあること……  
理解できなかった

ラプンツェルが紅蓮に  
もう一冊の本を渡した

"肉体を高める" 内容らしいが  
紅蓮はすっかり  
夢中になっていた



失礼…

しかし…

こんな事を  
教えて欲しいなんて…

あまりにも  
無謀すぎるような…

ほ…本当に  
これで良いのか？

こんな事

無理に  
試さなくても…

ふん

!!

紅蓮…  
紅蓮…？

あの生真面目な紅蓮が…  
俺のチンポを

こんな顔で  
啜えてるなんて…

この締め具合で  
問題ないか？

ああ…  
ああ…

うっ  
うんっ…

うっ

マズい！  
このままじゃ—

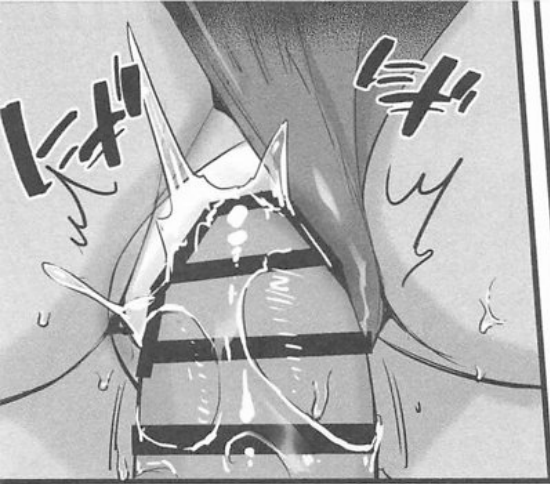
いつの間に  
こんな技を  
覚えたんだよ…

根元までしっかり  
啜え込むなんて…

あ2444









くそっ…  
少しは理性を保つ  
つもりだったのに

でも…  
もう…!!

指揮官  
いきたいなら  
いつでも…っ  
射精してどうぞ!

な…

そのまま

紅蓮のマンコに

白い子種汁を

ぶちまけてください

紅蓮…!!

中に…っ  
出すよ!!





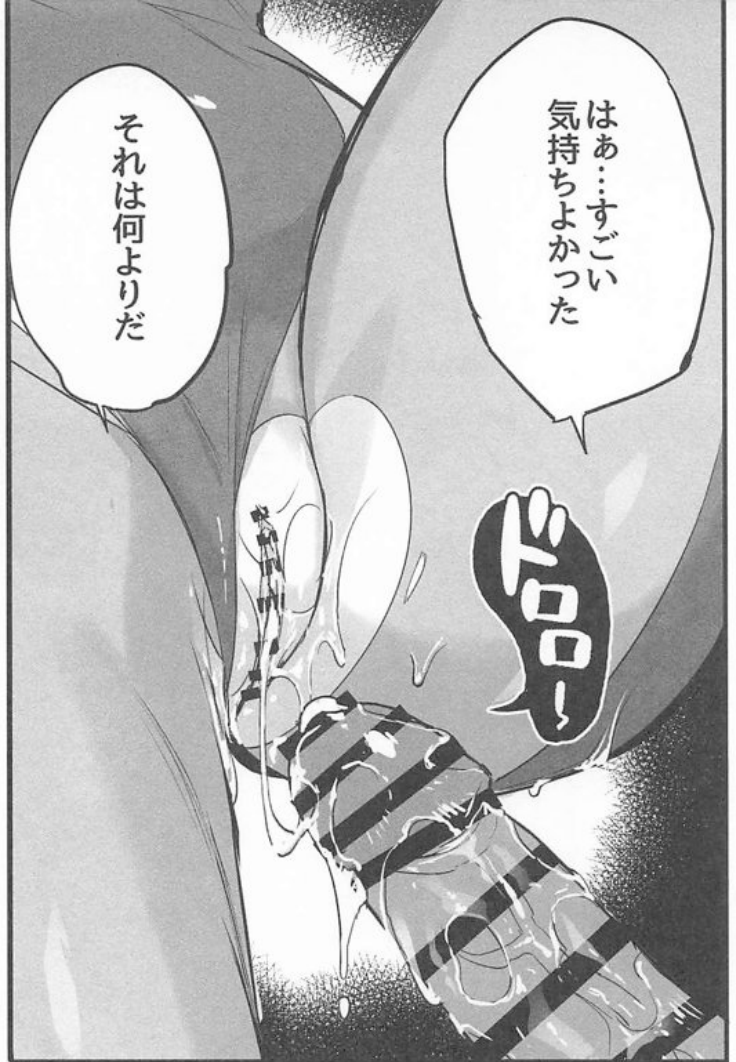
これで私も…

もつと強いニケに  
なれたはずだ



えっ…それは…

指揮官も…  
こんなに優れた性技を  
持つわたしの虜に  
なっただろう？



はあ…すごい  
気持ちよかった

それは何よりだ



それなのに  
自分の初めてを…  
こんなふうに  
俺に託してくるなんて…

ちゃんと想い合ってから  
するもんだって  
知らなかったんだろう

でも—  
男女の関係って  
本来はもつと慎重に…

ずっと疑問だった！  
なんで紅蓮が  
自分からこんなことを  
したいなんて求めてきたのか



…そういうことか



紅蓮のお願いに  
夢中になってた俺にも  
きつと落ち度はある  
でも…これって  
紅蓮が俺のこと…

変な期待を  
させないでくれよ

指揮官

もう少し  
付き合ってくれるか？

夜はまだ長いぞ――

えい

ドク  
ドク





いいか？紅蓮  
「強いニケ」ってのは  
こんなもんじゃないんだよ

なるほど…

精子を二度搾った  
程度では  
まだまだ足りぬ…  
ということか



ならば  
わたしも

書に記されていた  
「技」を…っ  
使わせて…もらうっ

このように…っ  
たっぷり奥まで  
迎え入れてっ

そのまま  
汝のチンポを  
絡め取るように  
締め上げれば

もう  
逃げられぬだろう



強いニケになるって  
それもまた  
誰のためなんだ？

……

こんなことに意外と  
まわりくどいんだな

まさかっ  
紅蓮にもあんな  
可愛い一面があるなんて……

汝……  
何が言っておるのか  
わからん

ふふっ……  
俺もほんとバカだ

れだけ暗示してたのに  
今さら気づくなんてね

あ！

んんん  
んんん



汝…  
変な言葉でっ  
気を…っ  
散らそうというのか？

そんなっ…  
小賢しいまねを…

びるん

ドキ



ほんとに可愛いよ！紅蓮  
もつと素直に気持ち  
伝えてくれればいいのに…

だからっ  
これは…修行の…っ

もみ

もみ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

ピク

はっ



わたしは今  
汝のチンポを…っ  
ぎゅっと締め上げて

完全に  
主導権を握っているのだ

あゝ

俺に構ってほしくて  
わざわざこんな「修行」  
までしたなんて……

そっ  
そんなわけないだろう!?  
指揮官ごときに……っ

わたしが気を  
引こうなんて

その気持ち  
ようやく分かったよ

きゅんきゅん……

その白くて  
濃いヤツ  
を……っ!

グッ  
スッ



ほら  
隙だらけだ…

今まで我慢してた分  
たっぷり可愛がって  
やるからな

だ…だから…  
これは…

ただの修行…  
であって…っ！

まだそんなこと  
言ってるのか？

—よし  
それなら今日は  
「種付け修行」だ！

たっぷりとな！







逃げんのか?

素直じゃないな

マンコも  
顔も...

とつくに  
トロトロの癖に

誰が:  
逃げるなどっ...



なら...  
トドメを刺すぞ

雌の悦びで...

はぁー  
完敗しろ!





すごい……っ  
こんなに  
大量の精子が……っ





不思議なことだ  
これが、恋ってやつなのか

ニケなのに……  
胸がふわっと軽くなるなんて



今回は汝に譲ってやろう  
だが、次は必ず取り返すぞ

指揮官

あれからも  
紅蓮の「修行」は  
毎晩つづいている――

もちろん  
指揮官と一緒に。



# あとがき

お買い上げありがとうございます

いつもお世話になっております、全白です。

前回と同じ、紅蓮の薄い本でしたが  
「思考転換」前の設定で色々と苦戦しました

それでも、最後までなんとか描ききれて  
すごく満足しています

皆さまのおかげで  
この素敵な作品を仕上げることができました  
本当にありがとうございます！

今後とも見守っていただけたら嬉しいです。



## おくづけ

イベント：C106

発行日：2025.08.16

発行者：全白

サークル：蒼き星

twitter(X): <https://twitter.com/Aokihoshi>

pixiv: <https://www.pixiv.net/users/11067101>

印刷：SUNGROUP



Twitter @Aokihoshi

蒼き星

G U R E N S A N R A N

紅蓮

又  
燦  
爛

